

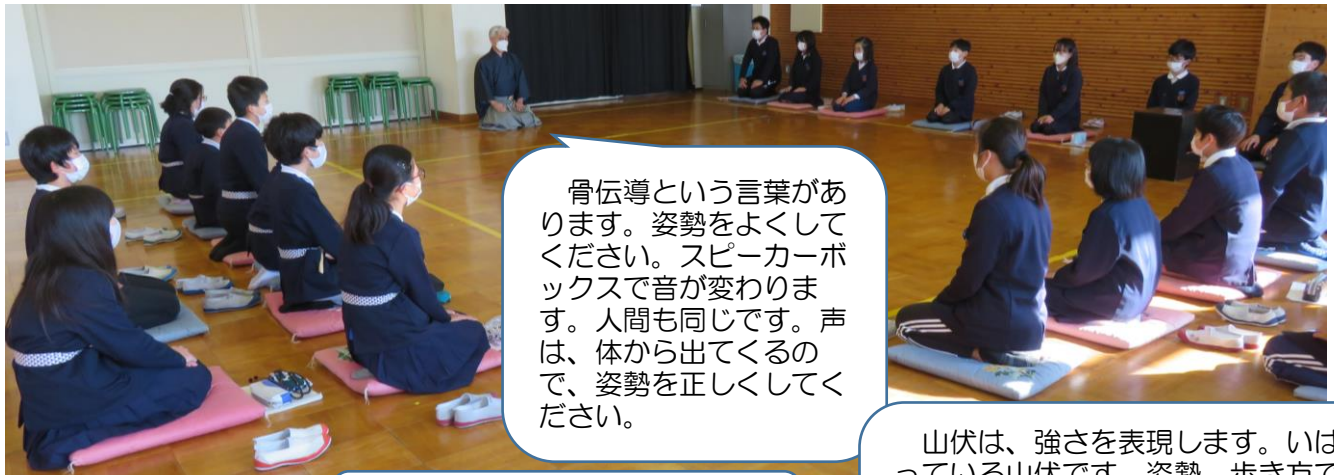
狂言が仕上がってきています（6年生）

11月21日（月）に、山口耕道先生による狂言のお稽古（第3回目）がありました。6年生の子どもたちは、前回の課題を意識しながら、自分たちらしい表現ができるようチャレンジをしていました。

『柿山伏』や『附子』のそれぞれの登場人物像を子どもたちなりに理解し、自分の演技はどのような状況の中でのセリフや動作なのかを考えて演じていました。山口耕道先生からは、「おもしろい！」「よく頑張っています。私（山口先生）は、うれしいです。そのまま伸び伸びやってください。」「うれしい、うれしい。こんなふうに仕上がっていくのだなあ。」「ほぼ仕上がっています。うれしいです。」等々、子どもたちの演技指導の際にお言葉をいただきました。

6年生の子どもたちは、日々、狂言の練習に励んでいます。素直さや一生懸命さが伝わってきます。12月7日（水）の本番に向けて、一層仕上げたいと思っています。

《発声の基本は、姿勢です》



骨伝導という言葉があります。姿勢をよくしてください。スピーカーボックスで音が変わります。人間も同じです。声は、体から出てくるので、姿勢を正しくしてください。

正座の際にも、背中を伸ばして姿勢よく座ります。

山伏は、強さを表現します。いばっている山伏です。姿勢、歩き方で強さ（いばっているところや傲慢さ）を表現します。移動の際の角、角の表現が大事です。業界用語で『溜める』と言います。堂々と歩きます。

《『柿山伏』の稽古より》



指先と目線で、礫の飛んでいった方向を示します。



本当に痛い時って、どうしますか？一度止まって痛がってもいいかな。柿はどんな物？



硬い柿が当たったらどんな痛み方をするかな？柿をむしり取って食べるしぐさは、イチゴをとる時と同じ感覚かな？そういうことを考えて演じよう。



畑主は、山伏が見えているけれども見ません。
柿の木の高さを表現する時、山伏の上を見ると高い柿の木が表現できます。



セリフをいう速さ・テンポがいい！



必死に隠れている、見つからないようにしている山伏を演じよう。扇子に隠れて演じます。思い切って演じましょう。

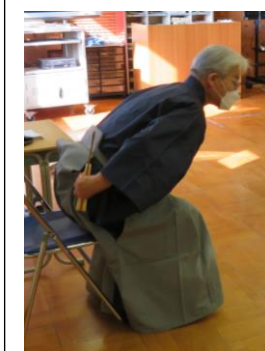


手で表現するなら、まっすぐ伸ばして高さを表現しよう。

「とびそうな とびそうな・・・」は、「ハーツ猿が参りて・・・」の猿唄と同じ感じで！初めはゆっくり、だんだん速くしていきます。



ステップアップしよう！
鳶は横から手を動かします。



石川啄木の「たはむれに母を背負ひてそのあまり 軽きに泣きて三歩あゆまず」の短歌を知っていますか？背負う時は、足幅を広げてバランスをとりましょう。



よく練習をしているのがわかります。自分たちなりに、どのように演じるとよいかを考えて表現できています。稽古を積むごとにどんどん上手くなっていて、狂言発表会本番がとても楽しみです。